

# 元宿北遺跡発掘調査説明資料

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター 平成 25 年 8 月 10 日

## 調査要項

遺跡名(番号)	元宿北遺跡(平成24年度登録)
所在地	山形県川西町西大塚字元宿北
時代・種別	奈良・平安時代・中世・集落跡
起因事業	一般国道113号梨郷道路整備
調査依頼者	国土交通省東北地方整備局 山形河川国道事務所
調査機関	公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
現地調査	平成25年5月20日から9月20日まで
調査面積	3,000㎡
調査担当者	主任調査研究員 菅原哲文(現場責任者) 調査員 高柳俊輔



図1 遺跡位置図(1/25,000)

## 調査成果(8月10日現在)

検出遺構	奈良・平安時代： <sup>いどあと</sup> 井戸跡 <sup>どこう</sup> 土坑 <sup>たてあなじょういこう</sup> 竪穴状遺構 <sup>みぞあと</sup> 溝跡 <sup>かせんあと</sup> 河川跡
出土遺物	平安時代： <sup>いどあと</sup> 井戸跡 <sup>すえき</sup> 須恵器 <sup>はじき</sup> 土師器 <sup>とうじき</sup> 中世：陶磁器

## 1 調査の概要

元宿北遺跡は、米沢盆地を北流する松川と、松川に合流する元宿川との間に形成された河岸段丘の北側に位置します(図1)。主な時代は、平安時代と中世です。今年度、一般国道113号梨郷道路整備事業により、発掘調査が実施されました。3,000㎡の調査区を1区と2区に分け(図2・3)、5月20日より1区の調査を行いました。8月20日以降に、2区の調査を予定しています。

## 2 見つかった遺構

調査区は、ほ場整備により削平された部分が見られますが、平安時代や中世の遺構が検出されました。1区では、井戸跡が2基、竪穴状遺構が1基、溝跡、土坑、河川跡が確認されました。SE4井戸跡は、掘り方の直径

が約3.5mで、井戸本体は1辺約1.2mの方形です(写真2)。底の方から、平安時代の須恵器坏が出土しました(写真4)。SE7井戸跡は、長辺1.9m、短辺1.3mを測り、方形を呈する遺構になります(写真5)。この井戸跡には、四角に組んだ井戸枠が残っていました。また、覆土中より、中世の珠洲焼の甕の破片が出土しました(写真6)。この井戸は、中世に使用されていたと考えられます。また、1区中央付近では、<sup>たてあなじょういこう</sup>竪穴状遺構(SX3)が検出されました(写真7)。長辺が2.6m、短辺が2.3mの方形をしています。柱穴は検出されていませんが、熱を受けた痕跡のある礫や、須恵器片が出土しています。1区の西側からは、旧河川跡と考えられるSD1が確認されました(写真8)。幅は11m~15m、長さは25m以上に及びます。東岸の浅い部分から、平安時代の須恵器片が多く出土して



図2 調査概要図(1/3,000)

います(写真9・10)。このことから、平安時代頃には、SD1は、堆積が進んで埋没し、湿地のような地形だったと考えられます。

## 3 出土した遺物

遺物は、須恵器や土師器、陶磁器などが主



写真1 SE4井戸跡 検出状況



写真3 SE4井戸跡 断面

体です。遺構に関するものでは、平安時代の9世紀前半頃の須恵器坏がSE4井戸跡から出土しました(写真4)。SD1東岸の浅い部分からは、9世紀代と考えられる須恵器の<sup>たんけいこ</sup>短頸壺や<sup>かめ</sup>甕が出土しました。中世の遺物は、SE7井戸跡から珠洲焼が、遺構からではありませんが、14世紀頃の越前焼、14~16世紀頃の青磁の破片が出土しています。

## 4 まとめ

今回の調査で注目されるのは、1区北側にある平安時代と考えられるSE4井戸跡です。元宿北遺跡の南には、治兵衛館跡がありますが、この遺跡で確認された平安時代の集落と概ね同じ時期に使用されていたと考えられます。また中世は、大塚城の出城である治兵衛館と同じ時期と考えられる井戸跡などの遺構や遺物が確認されました。



写真2 SE4井戸跡 精査状況



写真4 SE4井戸跡 須恵器坏出土状況

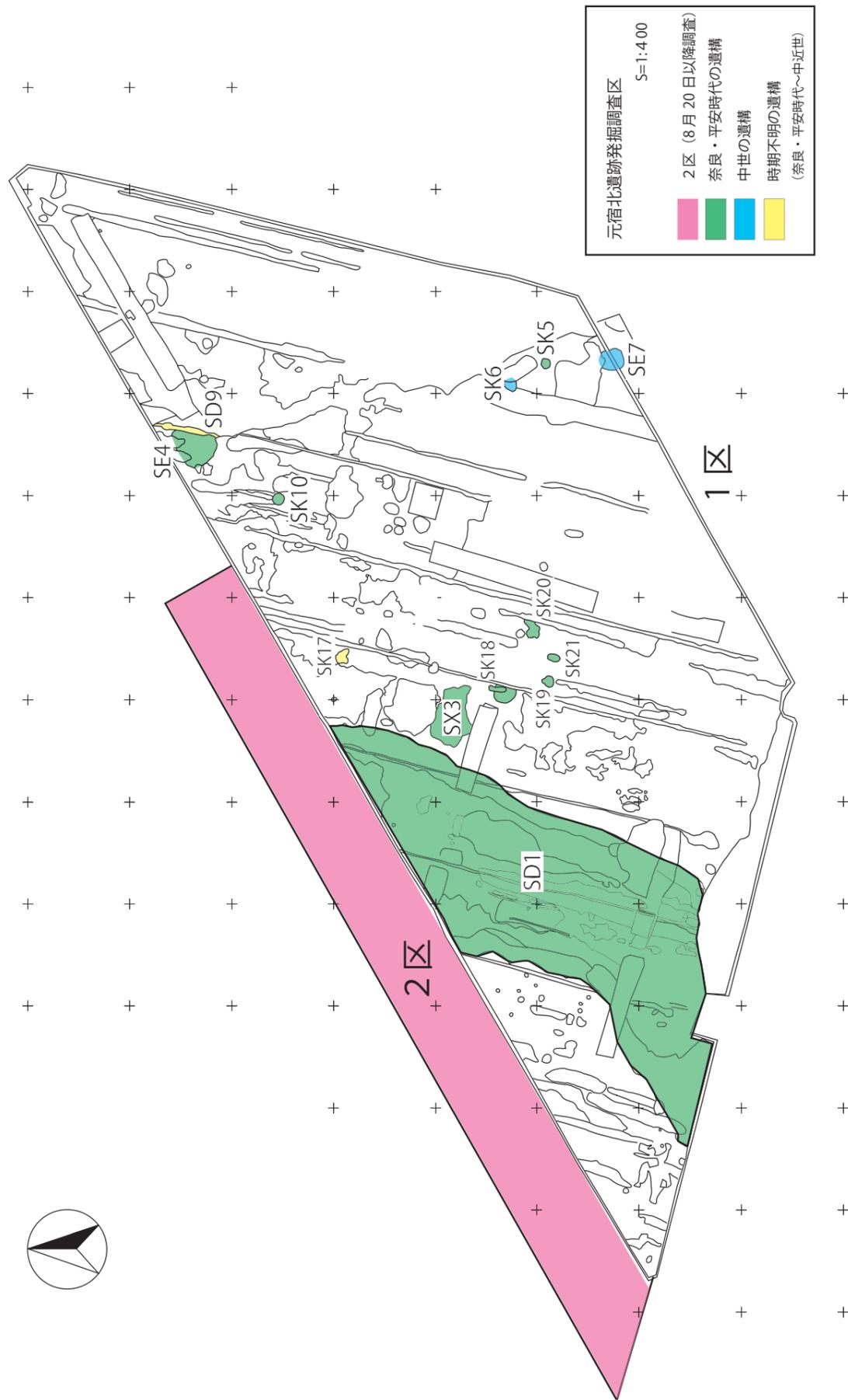


写真5 SE7 井戸跡 井戸杵検出状況



写真6 SE7 井戸跡 珠洲焼出土状況



写真7 SX3 竪穴状遺構 完掘状況



写真8 SD1 旧河川跡調査状況



写真9 SD1 須恵器短頸壺出土状況



写真10 SD1 須恵器出土状況



写真11 平安時代の遺物



写真12 中世の遺物